

JAXA の古藤執行役が資料 35-3(相乗り小型衛星の選定)を 20 分程で説明した後、10 分程の質疑応答があった。(平成 23 年度に GCOM-W1 を打上げる際に、韓国の KOMPSAT-3 と JAXA の SDS-4 を同時打上げするが、更に公募した相乗り小型衛星候補の中から 1 機、九州工大の「鳳龍 2 号」が選定された。これで、公募小型衛星の打上げ数は 11 機になり、打上げを待つものが 11 候補残っている事になる。)

(録音に失敗したので、要点のみ記録した。)

野本:相乗り衛星の名称が「鳳龍 2 号」とあるが、1 号が上がったと云う記憶が無い。1 号はどうしたのか?

JAXA 古藤:1 号は未だ打上げられておらず、ロシアの を使って打上げる計画だと聞いている。

野本:1 号と 2 号はタイプの異なる衛星なのか?

JAXA 古藤:違って居る。

池上委員長:搭載するカメラがサリー製と云う説明だった。サリーのカメラをどうするのか?

JAXA 古藤:買って来るのだと聞いた。

池上委員長:衛星の製作には最低 18 カ月とか掛ると聞いている。此の衛星を今決定して打上げに間に合うのか?

JAXA 古藤:衛星の製作には大体 2 年掛ると云う認識で居る。大学は追い込みを掛ける事が得意だし、既に製作に取り掛かっているの、十分に間に合うと認識している。

池上委員長:前回の打上で 5 機中 4 機が駄目だったが、今回はどうか?

JAXA 古藤:全く動かなかったものは 1 機であった。

池上委員長:JAXA は此の副衛星の製作に支援をしているのか<sup>1</sup>?

JAXA 古藤:建て前ではインターフェースの調整だけに手を出す事になっている。

池上委員長:通信が上手く行っていない例が多い。JAXA が企業に声掛けをして、面倒を見る様にさせて貰いたい。

JAXA 古藤:地上施設に問題があると思っている。副衛星にはどうしても軌道の制約があり、通信に都合の良い軌道が取れない事、また、大学が行う衛星開発は、衛星作りはそこそこ出来るものの、運用が先送りになってしまう傾向がある。

池上委員長:これは産学連携の一つのケースであり、同じ失敗を繰り返さない事が大切であるから、確り進めて頂きたい。

JAXA 古藤:今迄も 세미나 を開催するなど、積極的に取り組んで来た。此れからも確り取り組んで行きたい。

---

<sup>1</sup> 質問の意図が推察できない。「副衛星」と呼ぶだけで、其の衛星の位置付けが、或る程度共通理解出来るのではないかと敢えて質問として口にするからには、何かの意図があると思うが、其れが解らない。「副衛星」と定義しながら JAXA が細々世話をするのは誤りだろう。JAXA には国から与えられた使命があり、大学における教育活動の充実は入って居ない。若し、JAXA が必要とする機器(ロケット搭載・衛星搭載)を開発するのに、大学発ベンチャが適切だと判断すれば、其処を選定して其処と細々調整して当然だろう。然し此れは「副衛星」であるから、遠くで見守るのが正解だと思う。

池上委員長:相談窓口は明確になって居るのか?

JAXA 古藤:私が全て受ける様になっている。

池上委員長:製作に2年も掛ると、落ちたらがっかりする事だろう。大学が言う事を聞く良い機会であるから、積極的に活かして頂きたい。

JAXA 古藤: 세미나でのパネルディスカッションの様なオープンな場で、厳しい意見も聞いている。情報交換は出来て居ると思う。

池上委員長: HTV から放り出す<sup>2</sup>事を検討しなさいと JAXA に命じてあるが、検討は進んで居るか?

JAXA 古藤: 其の事を直接知る機会は無いが、小型衛星にも色々あるので、其れに合せた様々な機会を用意する事が必要だと認識している。

池上委員長: 皆、ロシアに行ってしまうと云うのは寂しい<sup>3</sup>限りである。

森尾: 今回選定から漏れたものが6個あるが、其れは次の機会に優先権が与えられるのか?

JAXA 古藤: 優先権を与える事は無い。また、今迄登録されたもので消えて行ったものもある。

森尾: それから、「帯電抑止フィルム」を使うと書かれているが、其の様なフィルムは今使っていないのか。

JAXA 古藤: 衛星の表面をフィルムで保護する事は行なっているが、此の種のフィルムについては良く知らない。別途お答えしたい。

池上委員長: 課題もある様ですが、確り進めて下さい。

(以上)

---

<sup>2</sup> HTV に副衛星を取り付けて、其れを放出する為には放出機構も付けなければならない。衛星打上げの為のロケットに副衛星を載せるのと何の違いがあると考えて居るのか。多分米国のスペースシャトルのバランス・ウェイト代わりに GAS を搭載する例を基準に考えて居るのだろうが、GAS はシャトルから切り離さないし、スイッチのオンオフを3回までしか支援しない。GAS は隙間に十分収まる企画であるが、HTV から副衛星を放出するのは、隙間に収める規模を逸脱している。

<sup>3</sup> 其れはそうだが、どうしてロシアのロケットを使いたい日本人が多いのかを分析した後で発言して頂きたい。